令和６年５月 12 日開催

つながる鎌倉エール事業
令和５年度実施事業報告会　各事業の講評及び報告会の総評

協働コース

1　team HINATA ハピネス Festival　（team HINATA×障害福祉課）

①評価できる点

- ハンデのあるなしに関わらず、ダンスや福祉事業所による販売など、様々な要素を取り入れ、様々な主体が参加し創り上げた本イベントはインクルーシブな社会の実現として素晴らしい活動であった。今後もぜひ継続してほしい。
- 福祉事業者等の参加などにより、福祉事業者にとっては販路の拡大、teamHINATA にとっては参加費を徴収することで本イベントの開催の継続性の担保ができ、それぞれの参加者が WINWIN となる活動であったことや、今後の継続性が担保できることについて評価できる。

②課題点

- 行政の役割が書類作成や関係機関との連携のサポートであったが、イベント自体を市の施策として今後どのように位置付けようとしていたのか、そして協働事業を今後どう進めていこうと考えているのかが明確でなかった。
- 協働は団体と市のお互いの目的を共有することから始まるため、団体側としても、行政の機構・運用についての理解が必要である。お互いが理解しあう関係性を構築し、相互理解を図ることが重要である。また、自己の活動だけに目を向けず、地域住民や関係団体との関係性やつながりを大事にし、視野を広く持って企画運営やスケジュールなどの調整に取り組めるとなおよい。

③今後のアドバイス

- 収支の観点から、今後も事業を継続していくために持続可能性を意識して取り組んでほしい。例えば、福祉事業者に多く参加してほしかったのであれば、様々な団体と連携してイベントの開催を実行委員会形式にして行うなどの工夫も今後は考えられる。素晴らしい活動であるため、時に自分たちで全てをこなそうとするだけでなく、他の団体と一緒に連携し、ノウハウや技術を共有することなども意識するとより発展的な団体として成長できると考える。
- 報告書などの書類に関して、市側が主に作成したという事実は少々残念である。団体としても今後様々な助成金を獲得する際には適切で魅力的に感じる書類を作成しなければならないことから、書類関係のノウハウは今回の事業を通じて学んでおくとよかった。

（※エール事業は団体の成長を促すことも一つの目的であるため、今後のエール事業の在り方や仕組みそのものとしても検討していく必要がある）

２　外国籍・海外ルーツ市民に対する行政相談窓口・相談機関一覧制作（やさしい日本語・英語）及び周知事業に関する協定書　（特定非営利活動法人まるまーる×地域共生課）

①評価できる点

- 団体と市が本協働事業を通じて学び合いの姿勢で臨むことができ、双方向の対話を行いながら、２者がお互いの強みを併せ持ち、かつ、それぞれが把握している市民のニーズを的確に反映させることができていたことから、協働事業として素晴らしい活動であった。
- 成果物（生活ガイドブック）自体も、内容が端的に記載され、かつ単純に「優しい日本語」にするだけでなく、行政特有の用語はあえて漢字にすることで、記号的に役所内やホームページで探しやすくするなどの工夫が凝らされていることも評価できる。

②課題点

- ニーズにかなう生活ガイドブックができたため、できる限り多くの必要な市民に届くように周知方法や広報の仕方を工夫して、もっと市内に広めていってほしい。
- 実際に困りごとのある市民が、生活ガイドをたよりに各機関に相談されたとき、その課題が解決されていく道筋を想定していたか。生活ガイドブックに記載されている内容について、相談先だけでなく、実際に外国籍の方が生活しやすくなるための解決策や環境を想定しておくとよりよい取組になるだろう。

③今後のアドバイス

- わかりやすい日本語で書かれていることから、外国籍の方向けとしてだけでなく、障害をお持ちの方や、教育的な視点、さらには、地域に外国籍の方が住まう自治会町内会の関係者にも配布するなど、本来の目的以上に様々な場面で活用することができる可能性を感じる成果となっているため、ぜひ対象を外国籍の方だけに絞らず、様々な場面での活用を検討してもらえるとよい。
- 市としては、本事業を引き続き協働で行っていく可能性のほか、委託という選択肢もあるため、様々な方法を検討して事業を継続し、さらに発展的に取り組んでほしい。

３　産前産後女性の健康サポート事業
（mama care 湘南×市民健康課（現：こども家庭相談課））

①評価できる点

- 理学療法士で構成されたグループとして、専門家集団ならではの特性を活かし、産後ママのニーズを的確にくみ取り、身体のケアという目的をはっきりさせたうえでその解決に導くための事業であったことが良い点である。
- 成果物（産前・産後ママのからだケア BOOK）について、今後永続的に使うことを想定し、極力更新をしなくても活用していけるという考え方のもと作成されていることについて評価できる。

②課題点

- 協働事業として鎌倉市が成果物を配付しているにも関わらず、市の連絡先が掲載されていないことなど、市の主体性が一部乏しく感じられた。成果物だけをみると、市の姿があまり見えないため、協働事業として市側の主体的な参加があるとなおよい。
- 協働事業として、成果物を作って終わりではなく、今後団体と市がどのように連携し、どのように課題を解決していくか、道筋を立てて取り組んでいくことが重要である。

③今後のアドバイス

- 団体としては、大きな社会課題に挑んでいることから、ぜひ長期間にわたって継続して取り組んでほしい。そのため現在の団体の構成員だけで活動を行おうとするだけでなく、長い目で見て団体としての世代交代や、構成員の成長を意識して取り組んでほしい。
- ママだけに子育てを任せず、パートナーと力を併せて子育てをしていくという視点を持った今後の道筋があるとなおよい。
- 専門家集団ならではの活動であったが、エール事業の趣旨から、子育て支援を行っている様々な団体や産後ママ（だけに限らず、パートナーや育児経験者などの関連する当事者全般）等と連携し、例えば産前ママと産後ママの交流の場を作り、そこで成果物に書かれていることなどを実践するなど、広がりが生まれるとなおよい。

※その他

産後ママの「孤立を防ぎたい」という市の目的があるのであれば、からだケア BOOK の内容が身体のケアに特化しており、心のケアについてもバランスよく触れているとよかったかもしれないという意見もある反面、様々な付加価値をつけることで、成し遂げようとする大きな目的がぶれてしまうことも考えられるという、両方面からの意見があった。
協働事業として、市と団体でこの事業で目指したい目的や軸をしっかり見定め、その目的に適う必要な内容が掲載されているとよいだろう。

スタートアップコース

４　子どもたちが自由に海で遊べる機会つくり～ホリデースイミーズ（湘南・海のようちえんスイミーズ）

①評価できる点

- 新しく立ち上げた団体として、スタートアップコースを通じて企画運営等やりきったことは大きく評価したい。活動者がやりがいを感じていることがプレゼンから伝わり、楽しみながら実践していることは良いことである。

②課題点

- イベントに参加する方は、ある程度生活に余裕がある方々であることが想定される。エール事業の趣旨から、市民活動団体として社会的な課題を解決するために本当に参加してもらいたい人はどういう方々で、どのようにして参加してもらえるかを考えてイベントの企画運営をできるとなおよかった。例えば、10 回の開催予定があったのであれば、参加してほしい対象者だけにしぼって開催する企画などもあってもよかったと思う。これからは、参加者の裾野を広げる工夫を行ってほしい。
- 審査選考会のプレゼンでは、海での活動が前提の説明をされていたので、海ではどのような活動を行っていたのか、その活動も聞きたかった。

③今後のアドバイス

- 団体としては、イベントを実施して参加者の評価が高かったことで満足せず、参加者のデータをしっかり集めて、今後の活動に生かしていくための分析にも取り組めると活動の幅が広がるだろう。リピーター等による内輪の取組ではなく、参加者の広がりを持てるように、イベントを通じて関わってきた方にアンケートを実施するなど、ニーズをしっかり分析して、取組に反映させるなどの工夫があるとよい。そのためにしっかり情報収集をおこなってほしい。
- 団体が取り組む活動の「社会的な価値」をしっかり整理、言語化し、10 年以上先を見据えた将来的な視点を持ちながら、価値の実現に向けて取り組んでほしい。これはスタートアップとして、意識してほしい部分であり、「この団体でなければできなかった」という特色を生み出してほしい。

５　地域をつなげる Meet up 事業（西鎌倉 CONNECT）

①評価できる点

- 孤立・孤独という社会課題に対して、地域のつながりを作るという適格な取組をしていることについて評価できる。
- 地域の様々なつながりを作る種をまくという取組であり、地域に入り込んでいきたいと考えている人たちの入り口となる場になってほしい。
- ここから地域での活動を始めることができるという場であり、鎌倉には自ら活動を企画して取り組む方々がたくさんいるので、様々な関係者とのつながりを作って今後も継続して取り組んでほしい。

②課題点

- 事業を運営していくための経費について、自団体の会費（個人の支出）による持ち出しが多いため、今後の継続性も考慮して工夫して取り組むとよい。
- 報告書は適切に作成してほしい。（作成の仕方について学んでほしい。）団体としての持ち出し分はいくらだったのか、補助金はどの経費に充てられたのか、明確にかつ適切な記載が求められる。これからエール事業に応募を検討しようとしている人たちの参考になることを意識してほしい。

③今後のアドバイス

- 本取組は、受益者における参加者も、同時に企画する側で参加しているという構図であり、やりたい人がやりたいときに実施するという手法を用いている。これは様々な人が主体的に活動できるということに価値があり、それを生み出していることから、今後も継続して実施してほしい。

令和６年５月 12 日開催

報告会全体の総評

■交流の場を兼ねた報告会の講評

- エール事業全コースを同日に実施し、報告団体を一同に会しつつ、見学者も積極的に募集して実施した今回の報告会は、報告会の場としても盛況であったし、報告会後の交流の時間では、団体同士や見学者との交流や質問などが積極的に行われていたことから、団体にとって新たな気づきやヒントを得られる場となったと考える。来年以降もぜひ継続してほしい。

■団体の報告の改善について

- 多くの団体に共通して、報告書の内容が少々杜撰である印象を受けた。例えば、決算書における費目の整理や金額の記載は正しく、かつ適切に行うべきである。エール事業ではこういった書類の作成の仕方を団体は勉強すべきであるし、提出された報告書は、他の団体が参考にできるものであるよう、適切な資料の作成を団体は心掛けてほしい。エール事業は公金を使った活動であり、団体は説明責任を果たさなければならないことを自覚してほしい。
- 一方で、報告書を受理する立場の行政としても、報告書の作成の仕方については指導するべき立場であることから、今後検討や工夫を行ってほしい。加えて、報告書の様式については、団体がより作成しやすい内容にするために、市民活動推進委員会による具体的な議論をしつつ、報告書の他にプレゼン資料等の別紙を添付することも可（もしくは必須）とするなどの工夫も検討すべきであろう。
- プレゼンのクオリティが団体ごとにまちまちであるため、報告支援（プレゼンの仕方や抑えるべきポイントの学習）を行ってもよいかもしれない。

■協働事業への理解について

- 協働事業における相互理解を促すために、「協働とはどのようなものか」、「団体・市のそれぞれの役割はどういうところにあるのか」、そのような協働事業を行ううえでの前提の説明が重要であろう。協働とはどのような取組か、これを正しく団体・市の担当課に理解してもらうための説明が必要であり、理解したうえで協働事業に臨む仕組みが、今後のよりよい協働事業につながるものと考えられる。